

平成 25 年度プリムラ利用状況 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

平成 25 年度プリムラ利用状況													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開設日	21	21	20	22	17	19	22	20	19	19	19	20	239
補助	105	99	89	109	78	100	86	88	107	70	107	116	1154
自主	0	1	1	1	1	1	2	0	0	2	2	4	15
合計	105	100	90	110	79	101	88	88	107	72	109	120	1169

平成 25 年 4 月 今年度は 4 月から利用者が多く 105 名でした。2 ヶ月続いて 100 名を超えています。

年齢別では 1 才児の 47 名（約 45%）で、全体のほぼ半数を占めました。保育園に入園して間もなく体調を崩し、プリムラを利用する幼児が多いようです。次いで 3 才児の 28 名（約 27%）、2 才児の 12 名（約 11%）でした。

疾患別では上気道炎の 68 名（約 65%）で全体の約 2/3 を占めました。次いで胃腸炎の 9 名（約 8%）、咽頭炎の 7 名（約 6%）でした。

平成 25 年 5 月 5 月の利用者はちょうど 100 名で 3 ヶ月続けて 100 名を超えました。年齢別では 1 才児の 42 名（42%）、2 才児の 19 名（19%）、3 才児の 14 名（14%）でした。

疾患別では上気道炎の 46 名（46%）で全体の約半分を占めました。次いで胃腸炎の 22 名（22%）、水痘の 5 名（5%）です。

プリムラは毎年年間計画を立て、製作活動を行っています。今年も 4 月から 5 月にかけて「こいのぼりの製作」を行いました。主眼は 1) 日本の年中行事に興味、関心を持つ、2) 子どもの個性を自由に表現し製作を楽しむことです。スタッフが事前に用意したパーツやシールをのりで貼ったり、好きな絵を描いています。こどもの体調や病状に配慮しながら、こどもの発想を尊重して楽しく製作に取り組めるように工夫しています。完成した作品はこどもたちが嬉しそうにお家に持って帰りました。



平成 25 年 6 月 6月の利用者は90名でした。年齢別では1才児の30名(33%)、次いで3才児の14名(16%)、乳児の13名(14%)でした。

疾患別では咽頭炎の35名(39%)、次いで上気道炎の28名(31%)、溶連菌感染症の5名(6%)でした。上位3疾患はいずれも呼吸器系疾患で、全体の75%になりますが、これにアデノウイルス感染症、気管支炎などの呼吸器系疾患を加えますと全体の89%になりました。プリムラを利用する子どもの殆どは保育園児です。4月から初めて保育園に通園した子どもたちは2カ月が経ち、保育園生活も慣れてきました。そのためか、プリムラ入室しても、はじめは泣いていますが、ほどなく慣れて遊びはじめます。4月に比べると、いつまでも泣いている子どもは少なくなりました。泣いている子がいると、もらい泣きする子もいますが、6月になり静かなプリムラになりました。落ち着いて過ごせています。

平成 25 年 7 月 7月の利用者は110名でプリムラ創設以来最多になりました。年齢別では1才児の44名(40%)、0才児の22名(20%)、2才児、3才児が同数の15名(14%)でした。

疾患別では咽頭炎の34名(31%)、手足口病33名(30%)、上気道炎の10名(9%)でした。手足口病は6月後半から急増し、1日の利用者6名全員が手足口病の日もありました。また1才児と0才児の最多の疾患は手足口病でした。手足口は例年夏にピークがありますが、今年は1昨年に次いで大きな流行です。口腔粘膜舌にアフタ、四肢末端に紅斑、水疱が出現するのが特徴です。発熱翌日に、手足以外にも腕肘、臀部耳などに大小様々な紅斑、水疱がみられます。手足口だけではないので、水痘と診断されることもあります。発疹はほぼ5日程度で赤茶色になるか、ひどい場合は痂皮(かさぶた)になります。保育園の登園基準は発熱が無く、食事が食べられれば可能で、登園届け出疾患です。

平成 25 年 8 月 8月は1週間の夏季休暇もあり利用者は79名でした。年齢別は1才児の27名(34%)、1才児の17名(27%)、2才児の16名(17%)でした。

疾患別の上位3種は先月と同じ順位で、咽頭炎の21名(27%)、手足口病で18名(23%)、上気道炎の10名(13%)でした。手足口病の順位は先月より病児数は減っており、流行は終息に向かっているようです。一方、RSウイルス感染症が4名おり、流行の兆しが見えません。今月の疾患総数は14種と多く、夏に特徴的な傾向が見られます。

平成 25 年 9 月 9月の利用者数は101名で、また100名台となりました。年齢別では1才児の38名(38%)、2才児の21名(21%)、3才児の19名(19%)でした。

疾患別は咽頭炎の36名(36%)、上気道炎で27名(27%)、喘息様気管支炎の10名(10%)でした。RSウイルス感染症(11名;11%)で、先月の約3倍に増えました。東京都感染症センターの週報を調べると患者が急増しており、この結果と傾向が類似しています。一方、手足口病の病児数「0」で、流行は終息したようです。

平成 25 年 10 月 10月の利用者数は88名でした。月前半は利用者数毎日5～6名の日が続きましたが、月後半から急減しました。台風が続いて雨が多く、空気が清浄化されたことで感染症の流行が抑えられたのが原因でしょうか。年齢別では9月と同じで1才児の33名(35%)、2才児の20名(23%)、3才児の15名(17%)でした。

疾患別も9月と同じで咽頭炎の29名(33%)、上気道炎の27名(31%)、喘息様気管支炎の8名(9%)、RSウイルス感染症の6名(7%)でした。

東京都感染症センターの週報では、感染症の流行は今のところ落ち着いているようです。

平成 25 年 11 月 11月の利用者数は10月と同じ88名でした。年齢別順位では1才児の38名(43%)、4才児の20名(23%)、2才児の14名(16%)でした。

疾患別では上気道炎の34名(39%)、咽頭炎の23名(26%)で、この2疾患だけで全体の約2/3を占めます。胃腸炎は15名(17%)で11月に入り急増してきました。嘔吐、下痢を伴う感染性の胃腸炎で、東京都感染症情報センターの週報でも感染性胃腸炎の急増が報告されており、その傾向と一致しています。

平成 25 年 12 月 12月の利用者数は107名で、3ヶ月ぶりに100名を超えました。年齢別順位では1才児の37名(35%)、2才児の26名(24%)、4才児の22名(21%)でした。各年齢で、いずれも胃腸炎が多く、極めて特徴的な傾向となりました。

疾患別順位では胃腸炎の53名(約50%)で突出しています。1日にお預かりした6名が全員胃腸炎であったこともあります。東京都感染症情報センターの週報でも感染性胃腸炎の増加が続いています。次いで上気道炎の16名(15%)、インフルエンザA型の12名(11%)でインフルエンザの流行が始まったようです。

平成 26 年 1 月 1月の利用者数は72名でした。お正月の休み明けは利用者が非常に少なく、中旬以降に急増し例年並みの利用者数になりました。インフルエンザの流行があり、定員6名全員がインフルエンザの日がありました。

年齢別順位では4才児の16名(22%)、1才児の14名(19%)、3才児の9名(13%)でした。いつも最多の1才児は少なく、また0才児(乳児)は「0」という極めて特徴的な傾向となりました。インフルエンザは0才、1歳には少ない事が影響しています。

疾患別順位ではインフルエンザの35名で全体の約50%になります。内訳はA型:14名、B型:21名です。例年はA型が終息した後にB型が続く傾向でしたが、今年は同時に感染者が急増しています。次いで胃腸炎の14名(19%)、嘔吐・下痢を伴う感染性の胃腸炎ですが流行は終息に向かっているようです。冬に多いのが咽頭炎の10名(14%)でした。

平成 26 年 2 月 2月の利用者数は109名で100名を越しました。年齢別では4才児の24名(22%)、5才児の20名(18%)、6才児の19名(17%)で通常と全く異なる年齢分布となりました。これは1月と同様にインフルエンザの流行がその原因です。

疾患別順位ではインフルエンザの 89 名で全体の約 82%になります。内訳は A 型； 50 名、B 型； 39 名です。今月は B 型に比べ A 型が多く先月とは傾向が逆転していますが、いずれも増加の傾向が続いています。次いで上気道炎の 8 名（7%）、嘔吐・下痢を伴う胃腸炎の 6 名（6%）でした。

平成 26 年 3 月 3 月の利用者数は 120 名で今年度最多になりました。利用率も 100%で連日定員一杯の利用が続きました。年齢別では 3 才児の 19 名（16%）、同数で 5 才児、6 才児、1 才児の 18 名（17%）でした。

疾患別順位ではインフルエンザの 65 名で全体の約 60%になります。先月に比べ利用者数は減少してはいますが流行は 4 月までなお続きそうです。内訳では A 型は 6 名、B が 59 名でした。今月は B 型が圧倒的に多く傾向が再逆転しています。次いで嘔吐・下痢を伴う胃腸炎の 18 名（15%）、上気道炎の 15 名（13%）でした。

平成 25 年度の 1 年間の利用者数は 1169 名でプリムラ創設以来最多になりました。また年間利用率も 81.5%と高く、全国病児保育協議会に所属する施設の平均年間利用率約 50%を大幅に上回っています。プリムラは平成 16 年 4 月開設以来、丸 10 年が過ぎました。

平成 16 年度は 1 年間自主事業で、公的補助なしで経営していましたが、平成 17 年度からは公的補助があり、今日まで開設出来ています。プリムラ単独経営では、毎年赤字が出ていますが、医療機関併設の病児保育室なのでクリニックから赤字を補填しています。プリムラ利用希望者も、変動があり、多い時は希望利用が多く、利用が少ない時は当日利用キャンセルが多く定員も満たない時があります。感染症の流行の変動でこれは仕方のないことですが、非常勤スタッフの労働条件が不安定になります。

4 月からはなるべく希望者はお預かりが出来るように、常勤職員の増員を行い、今後とも社会、地域のニーズに応じて行きたいと思えます。これからも宜しくお願い致します。